

令和6年度シラバス（英語）

中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	英語（ディベート・ディスカッション）	単位数	2単位	学年(コース)	5学年（国際科学科）
使用教科書	大修館 Genius English Logic and Expression II				
副教材等	啓林館 啓林館 Vision Quest English Grammar 47 啓林館 Vision Quest English Grammar 47 WORKBOOK 三省堂 Logical English Reading Level1				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身につけ、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</p> <p>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</p> <p>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</p> <p>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</p> <p>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</p> <p>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</p> <p>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</p>

2 学習目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションを支えるものとしての文法の形式・意味・機能に習熟し、必要な場面で適切な文法形式を用いて正しく表現することができる。 2. 日常的话题や社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合うことができる。 3. 日常的话题や社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えることができる。 4. 日常的话题や社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。

3 指導の重点

<p>一年間で、次の技術習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、段落構成を確認しながら文を書くことなどアウト
--

- プット活動を通して、論理の構成を工夫して話したり書いたりして伝えることを目指す。
- 特にディベートでは、即興ディベートから政策ディベートまで広く学習し、チームで協働しながら主体的で対話的な深い学びを実現する。
 - 表現活動の基盤として、文法・語法の強化に努める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聴くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項、対話の展開のしかたや論理構成について理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、一定の支援を活用すれば、日常的な話題や社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり書いたりする、また、聞いたり読んだりしたことを基に、意見や主張などを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えたり書いたりする技能、を身につけている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、多様な語句や文を用いて、論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えたり、書いたりしている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、多様な語句や文を用いて、論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えたり、書いて伝えたりしようとしている。</p>
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Unit 1 What Country Do You Want to Go To?		クラスメートに向けて行きたい国を紹介することができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
5	Unit 2 Book Report		ビブリオバトルの聴衆に向けて、すすめたい本を紹介することができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
6	Unit 3 What News Are You Most Interested In?		クラスメートに向けて、気になるニュースについて説明することができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
6	定期考査			1	

7, 8	Unit 4 What Do You Think about Sports?		クラスメートに向けて、スポーツに対する自分の意見を述べるができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
8, 9	Unit 5 Must-Try Local Foods		観光客に向けて、すすめたい地元の料理を紹介することができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
9	定期考査			1	
9, 10	Unit 6 Letter of Encouragement		悩みを抱えている人へ励ましの手紙を書くことができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
11	Part II Unit 1 What Makes You Happy		自分を幸せにするもの／ことについてのパラグラフを書くことができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
11	定期考査			1	
11, 12	Unit 2 Does Technology Make Our Lives Better?		科学技術と生活についてのパラグラフを書くことができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
1	Unit 3 My Personal History		自分自身のこれまでを振り返るパラグラフを書くことができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
2	Unit 4 City or Country?		都会と田舎のどちらに住むべきかについてのパラグラフを書くことができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り
2	定期考査			1	
2, 3	Unit 5 Environmental Problems		環境問題とその解決策についてのパラグラフを書くことができる。	6	ワークシート 授業中の取り組みの見取り

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- 1 与えられたトピックに関連する表現や論理構成を学ぶ
- 2 教科書の文法問題および副教材の問題に取り組む
- 3 Part II Unit 4～Unit 5 の言語活動を行う
- 4 副教材演習問題

8 担当者からの一言

4年生で養ったコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」、および「書くこと」の3つの領域を中心とした発信能力を育みます。特にディスカッションとディベート、1つの段落をきちんとした英語で書くということに重点を置きます。論理の構成や展開を工夫して伝え合う、または伝える、書くことを目標に頑張りましょう。積極的に授業に参加し、話す活動、各活動の体験を重ねることで論理的に考える習慣や、共感したり豊かに想像する習慣を身につけましょう。基礎的な力を定着させ、応用力を養うために家庭学習は欠かせません。課題や自主学習にもしっかり取り組み、充実した一年にしましょう。(担当：森田、稲川)